

# 学校図書館運営と教育的役割

—現状から捉えた学校図書館の機能—

A School Library Administration and its Educational Role

—The Function of the School Library Based on Present Conditions—

村上 詠子

(Eiko MURAKAMI)

## I. はじめに

文部科学省は2008年3月28日に新たな幼稚園教育、小学校、中学校の学習指導要領を告示した。改訂の基本的な考え方の一項目に「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する」とあり、「言語活動の充実」があげられた。言語を知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤とし、国語科だけでなく各教科でも、記録、説明、論述、検討の学習活動が盛り込まれる<sup>1)</sup>。中学校においては、第2学年で「新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること」があげられている。高等学校および特別支援学校の学習要領の告示は今年中に定めるとしている。新学習指導要領の完全実施は、小学校2011年度、中学校2012年度となるが、文部科学省は理数教育を中心に2009年度から前倒しの実施を検討している<sup>2)</sup>。現行の「生きる力」を育むという基本理念は継承されるが、この改訂は情報化の進展に伴いその変化に対応できる問題発見型、問題解決型の学びや教えを要求したものと考えられる。これからの児童・生徒に必要とされる新たな力は、新しい時代の変化を予測し変化に対応できる「創り出す力」である。そのため、学校図書館は今まで以上の学習・情報センターとしての機能が求められることになる。今後の学校図書館は、情報、知識に対応するだけでなく、自分で選び取る能力を培う場となる必要がある。

本研究は学校図書館の運営に重点を置き、東京都内の現状に留まらず他県を含め調査し、学校図書館が学校の教育機関の一つとして、児童・生徒に直接結びつく「力」を現状で育成し培わせることができるのかを考察したものである。

## II. 学校図書館経営

### 1. 学校図書館の経営

現、日本学校図書館学会の顧問である室伏武氏はすでに『新学校図書館事典』の中で、学校図書館の機能を果たすためには「明確な目的をもった継続的な奉仕計画と指導計画を備えた学校図書館計画が準備されなければならない。すなわち、児童・生徒に対しては、読む、見る、聞く能力を育成させ、学習の方法を身につけ生涯にわたって学べる自己形成の技能や創造的な

表現方法やコミュニケーションの手段を提供し、教師に対しては、教育課程の編成やその実施に際し、豊富なメディアや教育関係の学術情報を提供していかなければならない。」<sup>3)</sup>と明言している。そして、学校図書館計画の目標に「学校図書館が属している学校の教育目標を十分に理解し、これを図書館計画に反映させていくことが基本的な要件となる。」<sup>3)</sup>とし、その目標を要約し総体的、具体的に8項目あげている。また、学校図書館計画の原則については8項目の諸活動をあげ、その諸活動を実施するために4つの構成要素をあげている。この構成要素は「効果的な学校図書館計画を立案、推進していく上で重要な原則となり得る」<sup>3)</sup>と明記している。確かに「健全な運営による組織目的達成には優れた経営感覚が必要である。」<sup>4)</sup>ということが、室伏氏の執筆後20年以上経過した現在においても変わらず学校図書館に求められている。

学校図書館経営とは、教育機関としての学校図書館の機能を備え、その機能を充分発揮し、教育的な運営を行うということである。学校図書館が教育的な運営を行うためには、学校経営の計画と合致した運営が必要であり、また重要となる。それは、学校図書館法の設置目的である「学校の教育課程の展開に寄与する」、「児童又は生徒の健全な教養を育成する」といった定義が学校教育に欠くことのない機関として学校図書館の目的と学校の基本目的が一致するからだ。そして司書教諭は図書館運営の理念と実践とを推進する重要な役割を担っている。学校図書館の活性化を図るためには、学校図書館の経営が司書教諭によって計画的に運営されることである。

## 2. 学校図書館の運営

### 1) 学校図書館経営における学校図書館の運営と学校図書館の活性化

目白学園中学高等学校においては、学校図書館経営、学校図書館運営を行う際に、年間計画を作成しそれに準じて図書館運営を遂行してきた。目白学園中学高等学校は、平成20年度末で女子校に終止符を打ち、平成21年度より男女共学となる。現行の学校図書館年間計画は平成20年度末で終了し、平成21年度以降は新たな学校図書館経営、学校図書館運営を確立することになる。

目白学園中学高等学校図書館は、学校教育における教育機関の一つとして長い年月現行の図書館年間計画と共に歩み、教育機関の一環として運営をおこなってきた軌跡は揺るがせない。平成20年度終了までは、現行の学校図書館経営、学校図書館運営を遂行することとなる。

目白学園中学高等学校図書館の年間計画書は、室伏武・高桑康雄・瀬戸真編による『新学校図書館事典』をもとに度重なる研究会、研修会を参考に作成したものである。以前、目白学園中学高等学校の教育組織には館長制度があった。それまでは職員室直属、校長直属、教頭直属といった所属する組織はまちまちだった。しかし、その館長制度も組織変革により廃止され、その後庶務部に所属したが重なる組織変革によりその庶務部も廃止、そして現在の教務部所属に至る。その間、年間計画書は数回にわたり改訂を行い目白学園中学高等学校図書館としての

基盤を構築してきたものである。以下がその年間計画書である。

## 2) 目白学園中学高等学校図書館年間計画書

「年間計画書」は次のⅠ. 年間計画書 Ⅱ. 月別実施計画書 Ⅲ. 図書館運営の目標 Ⅳ. 図書館の方針 Ⅴ. 図書館の考え方 Ⅵ. 定期図書、新聞、雑誌、カセットテープ、ビデオテープ、CD、DVD、CD-ROM一覧表 Ⅶ. 図書館の蔵書数・図書館の利用と貸し出しー図書ベスト50 Ⅷ. 集団読書テキストについて Ⅸ. 年度図書館業務報告 X. コンピュータ導入に際しての業務順序 XI. 年度学校図書館研究会他出張の11項目である。

ここで取り上げる項目は、Ⅰ. 年間計画書、Ⅱ. 月別実施計画書、Ⅲ. 図書館運営の目標、Ⅳ. 図書館の方針、Ⅴ. 図書館の考え方、Ⅵ. 定期図書、新聞、雑誌、カセットテープ、ビデオテープ、CD、DVD、CD-ROM一覧表のカセットテープ他視聴覚資料の取り扱い方法、X. コンピュータ導入に際しての業務順序、の7項目とし、Ⅵ. に関しては一覧表には触れずその使用方法を記載する。X. を除くⅧ. からXI. は年度ごとに増減を繰り返す項目であり、また報告となるため省略する。

### 〔Ⅰ. 年間計画書〕

1. 年間目標 (1) 図書資料の充実・様々なソフトウェアや情報機器の整備を進め、高度情報化通信社会における学習センターを目指す。(2) 「自ら学ぶ」主体的学習展開を可能とする蔵書構成を行う。(3) 「生きる力」の教育に伴い、優良図書選定に力を入れる。(4) 図書を利用し、学力向上と精神向上を培い、より教養を深める環境を作る。(5) 大勢の生徒が気軽に図書館を利用し、学習や読書、調べ事などへの発展を援助する。
2. 業務内容 (1) 図書館の利用者数、図書貸し出し数の増加を計るため広報活動をする。(2) 利用者が、目的の図書を容易に取出し出来るように工夫する。(3) 図書館内を利用しやすい環境に整備する。(4) 受付カウンターで利用案内、図書指導をする。(5) 図書選定委員会の協力を得て、購入図書の選定を行う。(6) 視聴覚教材カセット、ビデオ、CD、DVD、CD-ROM等の利用環境を整える。(7) 進路に対する情報を収集し、提供する。(8) (国際コース、ACE) 留学生のための図書をそろえる。 ※ ( ) 内は、以前の教育組織名称
3. 図書選定委員会 (1) 優良図書の選定
4. 図書委員会協力内容 (1) 新着図書を提示、紹介する。(2) 受付カウンターで先生の仕事を手伝う。(3) 図書館利用状況、貸し出し図書等を集計する。(4) 未返却図書の請求。
5. 年間を通じての仕事 (1) コンピュータを利用したの図書管理業務。(2) 図書目録の作成。(3) ビデオテープ目録の作成。(4) カセットテープ目録の作成。(5) CD目録の作成。(6) DVD目録の作成。(7) CD-ROM目録の作成。(8) 新着図書

目録の作成。

6. 図書の貸し出し・未返却 (1) 返却期日(1週間)が過ぎた時は、図書委員を通じ文書で本人に連絡する。(2) 学期末には、担任の先生を通じて本人に連絡する。
7. 蔵書点検は年度末において終了する。
8. 古い雑誌を希望者に配布。
9. 図書館館内に各コーナーを設ける。  
〈別置コーナー〉(1) 修学旅行 (2) 英語 (3) 進路 (4) ビデオテープ (5) カセットテープ (6) CD (7) DVD (8) CD-ROM (9) 新聞 (10) 雑誌 (11) 新着図書 (12) ビデオ、カセット、CD、DVD、CD-ROM視聴 (13) 新着 (14) 文庫 (15) 絵本 (16) 社会科巡検用図書 (17) 先生推薦図書 (18) その他  
〈定着別置コーナー〉(1) 事典・辞典類 (2) 教科に伴う辞典類－国語・古語・漢和・英和・和英・英文法 (3) 美術大型図書類 (4) 地図大型図書類 (5) 年鑑図書・年鑑雑誌・縮刷版 (6) ブックレット－岩波・かもがわ・他 (7) 集団読書テキスト (8) 教員用図書 (9) 専門図書 (10) 学習参考書 (11) その他

## 〔Ⅱ. 月別実施計画書〕

- 4月 (1) 年間業務計画立案 (2) 図書選定委員会 (3) 図書館利用の手引き配布 (4) 全校生徒図書館利用指導・オリエンテーション (5) 新年度予算購入計画－新規図書、新聞・雑誌、ビデオ・カセットテープ、CD、DVD、CD-ROM、事務用品、他 (6) 未返却図書整理 (7) 前年度図書館利用状況の統計 (8) 職員会議資料作成 (9) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 5月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 6月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 未返却図書整理 (4) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 7月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 未返却図書整理 (4) 夏期休業貸し出し開始 (5) 講習中の開館 (6) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 8月 (1) 講習中の開館 (2) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 9月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 高校修学旅行資料準備 (4) 桐陽祭準備 (5) 夏期休業貸し出し未返却図書整理 (6) 第1学期利用者・貸し出し統計 (7) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 10月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 高校修学旅行資料準備 (4) 読書週間の指導 (5) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・遡及本
- 11月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 未返却図書整理 (4) コ

コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・廻及本

- 12月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 未返却図書整理 (4) 冬期休業貸し出し開始 (5) 新年度予算案作成 (6) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・廻及本
- 1月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 新年度予算案提出 (4) 中学修学旅行資料準備 (5) 冬期休業貸し出し未返却図書整理 (6) 第2学期利用者・貸し出し統計 (7) 高校3年貸し出し終了・返却 (8) 次年度新規購入、新聞・雑誌検討 (9) 各教科等の図書他購入希望調査 (10) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・廻及本
- 2月 (1) 新規図書選定・発注・処理 (2) 新規図書購入紹介 (3) 次年度新規購入、新聞・雑誌決定 (4) 各教科等の図書他購入希望決定 (5) 全予算消耗確認 (6) 図書貸し出し終了・返却 (7) 図書館利用の手引き新原稿作成 (8) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・廻及本
- 3月 (1) 年度残務処理 (2) 業務報告書作成 (3) 次年度の準備 (4) 年間利用者・貸し出し統計 (5) 未返却図書整理 (6) コンピュータ入力－新着図書・寄贈図書・廻及本
- ※書架整理は高校図書委員会で実施 ※図書配架移動は必要に応じて行う

### 〔Ⅲ. 図書館運営の目標〕

- 〈運営目標〉 1. 図書館利用者の増加 2. 図書利用者の増加 3. 視聴覚教材 (ビデオ、カセットテープ、CD、DVD、CD-ROM) の利用促進 4. 国際化対応のための図書購入 5. 学習他に応じた新刊図書を幅広く選書 6. 図書館情報の利用による広報活動 7. 蔵書構成の充実 8. 蔵書管理 9. 図書目録の作成
- 〈図書館の活性化〉 1. 授業での閲覧室利用 2. 図書館利用の手引きを使用し、オリエンテーションの充実 3. 教科等の協力をもとに、優良図書紹介を依頼 4. 希望図書の購入 5. 図書委員会を媒体とし、図書館利用を促進 6. 新着図書を掲示板等で紹介 7. 館内に観葉植物を設置する等の学習環境整備 8. 利用者の希望に叶うレファレンスの充実

### 〔Ⅳ. 図書館の方針〕

1. 生徒が自主的に利用できる学習・情報・読書センターとして、どの活動にも充分に対応できることを目的とする。(1) 多様な活動を計画的・総合的に行えるよう支援する。(2) 情報センターとしての役割を担う。(3) 精神的向上をはかる人間形成の場とする。
2. 図書館利用を通じてその機能を活用してもらえようにする。(1) 自主的・自発的な学習姿勢 (自学自習の能力) の向上。(2) 生徒の相互理解や緊密な連携による望ましい人間関係、情操を育む。(3) 生涯学習者としての能力を習得する (外国語、コンピュータ等の新知識)。

3. 創造力を養う場とする。

- (1) 教科目の展開に対応
  - (2) 学校行事に対応
  - (3) 社会、生徒の興味に対応
  - (4) 情報検索能力を高める
- 単なる対応ではなく、より深い知識習得や  
創造力を養う場とする。

4. 教育課程の展開に寄与するために、蔵書構成に力をいれる。

5. 利用者のより深い読書により、豊かな人間性と創造力を育成する場とする。

6. 情報処理能力の育成の場とする。

- (1) 情報の受信力 (2) 情報の処理能力 (3) 情報の把握能力 (4) 情報を加工する能力
- (5) 情報を組織する能力 (6) 情報の伝達能力 (7) 情報を記録する能力

7. 教科目の学習は勿論、諸活動・桐陽祭・修学旅行資料の提供等、生徒の生活に密着した要望に応じられる蔵書構成を目標とする。

〔V. 図書館の考え方〕

1. 学校図書館の機能 (1) 学習センター (2) 情報センター (3) 読書センター
2. 学校教育と学校図書館 (1) 基礎・基本の重視、徹底 (2) 個性を生かす教育の充実 (3) 生涯学習者としての能力・技術・技能の啓発 (4) 国際化時代への適応 (5) 情報処理能力の育成 (学習目的の達成のために、学校図書館を計画的に利用し、その機能を活用するよう努める必要がある)。
3. 学校図書館の対応 (1) 教科目の展開に対応 (2) 学校行事に対応 (3) 社会の動きや生徒の興味に対応 (4) 情報検索を軸にした対応
4. 国際交流時代と学校図書館 情報機能を拡大して、幅の広い文献を収集する。
5. 進路と学校図書館 (1) 生徒が生涯の進路を決定するために役立つ情報・生涯のテーマの選択に役立つ資料を提供する。(2) 読書資料は、どういう人生を選ぶかという基本的課題に応えるための方法。(3) 図書館を活発に利用する態度・習慣を身に付けさせることが生涯教育に役立つものと期待される。(4) 高校3年生対象大学図書館の利用
6. 自発的に学習し、力を付けさせるための情報・資料を活用する能力 (1) 探し集める能力 (2) 文章にまとめる能力 (3) 発表する能力
7. 図書館としての資料の選択 (1) 学習するための資料 (2) 調べるための資料 (3) 知識の図書 (4) 豊かな人間性を育む読み物 (5) 文学作品 (6) 視聴覚資料 (7) 趣味・娯楽のための読み物

〔VI. 視聴覚資料の取り扱い方法〕

原則として、著作権の保護のため館外貸し出しは行いません。すべて、図書館内での視聴、鑑賞となります。お守り下さい。

1. ビデオテープの取り扱い方法 (1) ビデオテレビは7台設置しています (2) ビデオテレビの操作は静かに、ていねいに使用してください (3) 操作にトラブルが起きた場合、カウンターへ申し出て下さい。(4) ビデオ終了後、巻き戻しカウンターに返却して下さい。引き続き利用する場合は、予約することが出来ます。(5) ビデオテレビには、どれもヘッドホンを使用することになっています。1台につき、4人から8人までは使用することが出来ます。
2. カセットテープの取り扱い方法 (1) カセットテープ・レコーダーは3台設置しています (2) カセットテープ・レコーダーの操作は静かに、ていねいに使用してください。(3) 操作にトラブルが起きた場合、カウンターへ申し出て下さい。(4) カセットテープ使用后、巻き戻しカウンターに返却して下さい。引き続き利用する場合は、予約することが出来ます。(5) カセットテープ・レコーダーには、どれもヘッドホンを使用することになっています。1台につき、2人から4人までは使用することが出来ます。
3. CDの取り扱い方法 (1) CDプレーヤーは3台設置しています (2) CDプレーヤーの操作は静かに、ていねいに使用してください。(3) 操作にトラブルが起きた場合、カウンターへ申し出て下さい。(4) CD使用後はCDをカウンターに返却して下さい。引き続き利用する場合は、予約することが出来ます。(5) CDプレーヤーには、どれもヘッドホンを使用することになっています。1台につき、2人から4人までは使用することが出来ます。
4. DVDの取り扱い方法 (1) DVDプレーヤーは7台設置しています (2) DVDプレーヤーの操作は静かに、ていねいに使用してください (3) 操作にトラブルが起きた場合、カウンターへ申し出て下さい。(4) DVD終了後、カウンターに返却して下さい。引き続き利用する場合は、予約することが出来ます。(5) DVDテレビには、どれもヘッドホンを使用することになっています。1台につき、4人から8人までは使用することが出来ます。(6) 6台は生徒用、1台は授業用です。授業用は生徒個人の利用は出来ません。
5. CD-ROMの取り扱い方法 (1) CD-ROMは管理用コンピュータで操作出来ます。(2) 閲覧には管理用コンピュータを使用することになります。管理用ソフトが内臓されていますので操作は静かに、ていねいに操作してください (3) 操作にトラブルが起きた場合、カウンターへ申し出て下さい。(4) CD-ROM使用後は管理用ソフトと切り替えますので申し出て下さい。
6. 視聴覚機器の貸借方法 (1) テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤーは授業用に使用する場合のみ貸し出します (教員)。(2) カセットテープ・レコーダー、CDプレーヤーは、行事等に使用する場合のみ貸し出します (教員、生徒)。

#### [XI. コンピュータ導入に際しての業務順序]

現在、自館の管理用ソフトはブレインテック社の「情報館95」を導入。

1. 貸出管理 ①貸出②予約③閲覧④返却⑤利用状況問い合わせ (利用者別利用状況一覧、貸出予約一覧予約者連絡表) ⑥処理履歴印刷 (本日分・期間指定) ⑦督促処理 (延滞者一覧、

督促状、宛名ラベル) ⑧返却日・督促日変更

2. 図書検索 ①前方一致検索②部分一致検索③全資料一括検索④高速部分一致検索⑤高速検索インデックス作成
3. 統計処理 ①図書別統計(分類別・費目別・種類別)②図書別貸出回数ベスト100③利用者別統計(個人別・利用者区分別)④利用者別貸出数ベスト100⑤日別・曜日別・時間帯別統計⑥統計値修正入力(図書別・利用者別)⑦来月の準備・来年の準備・統計全項目クリア
4. 発注・受入処理 ①図書データ入力(追加・修正)②図書データ入力リスト(一覧・詳細)③固定ディスクへの追加登録④登録番号仮登録⑤発注先マスタ入力・リスト⑥受入・支払情報入力
5. 会計処理 ①発注図書一覧(発注先別・発注日順)②未納図書一覧(発注先別・発注日順)③未払図書一覧(発注先別・発注日順)④発注受入支払状況(発注先別・発注日順)⑤会計明細表⑥年間会計表⑦分類別蔵書集計表⑧予算管理(予算入力・リスト、予算消化状況リスト、予実算合計表)
6. 蔵書管理 ①貸出禁止・除籍処理等の入力②貸出禁止・除籍紛失図書一覧③除籍処理(図書データ抹消)④蔵書点検(点検データの読み込み、点検データリスト、点検データ更新、蔵書有無手入力、蔵書有無チェックリスト、点検データ全消去)⑤保管場所・配架場所別蔵書一覧

以上が年間計画の詳細となる。

### 3. 年間計画遂行結果

現行の年間計画によって運営してきた結果は過去においては、平成6年度をスタートに学校図書館全国大会、東京都私立研修大会、他県の研究会での講演や発表を毎年行い近年では「学校図書館事例集」第一法規出版<sup>5)</sup>、「本はともだち」読売新聞社<sup>6)</sup>「学校図書館」全国学校図書館協議会発行<sup>7)</sup>、「としょかん通信」全国学校図書館協議会発行<sup>8)</sup>、「司書教諭の役割」文部科学省認定・近畿大学司書教諭課程テキスト<sup>9)</sup>、にそれぞれに筆者は執筆している。また、2006年、2007年と2年連続で日本学校図書館学会で発表、2008年5月には東京私学学校図書館研究会の講演者として「学校図書館の一年間」<sup>10)</sup>というタイトルで講演を果たした。平成16年度より紀要論文として連続調査研究を果たし掲載している。左記の結果が得られたことで、学校教育の教育機関として学校図書館運営を計画的に遂行し、学校図書館の運営基盤を築きあげたといえる。

### Ⅲ. 学校図書館運営調査

学校図書館の運営条件には次のような項目があげられる。その項目に従って学校図書館運営の基礎となる条件が揃っているか他県を含め調査を行った。学校名は記載しない。



## 1. 調査内容

- Q 1. 図書館は専用か、共有か A) 中学専用 高校専用 中高共有
- Q 2. 生徒数、クラス数 A) 生徒数 高校 中学 クラス数 高校 中学
- Q 3. 図書館面積 A) m<sup>2</sup>
- Q 4. 閲覧室の座席数 A) 席
- Q 5. 校務運営上の組織・所属 A) 独立（独立組織の名称）非独立（所属）
- Q 6. 視聴覚関係の業務 A) 有（有の業務内容） 無
- Q 7. 専任の職員数 A) 司書教諭 司書 図書館事務 その他
- Q 8. 現在の蔵書数 A) 冊
- Q 9. 現在の予算 A) 図書費 新聞・雑誌費 AV資料費
- Q 10. 購入新聞・雑誌数 A) 新聞 雑誌
- Q 11. 年間授業時間数 A) 時間
- Q 12. コンピュータ導入台数 A) 台
- Q 13. コンピュータの利用目的 A) 業務用 自館資料検索用 インターネット接続  
インターネット・ソフト閲覧用 その他（例；事務用）
- Q 14. 管理用ソフト名 A)
- Q 15. 入力業務 A) 外注入力 週及データのみ 自館入力  
(J-BISC N-BISC TRC-MARC CD-NOCS 未使用)
- Q 16. LANシステム A) 有 無
- Q 17. 検索方法 A) 目録カード コンピュータ
- Q 18. 目録の種類 A) 分類 書名 著者名 件名 カードレス その他
- Q 19. 廃棄基準 A) 有 無
- Q 20. 図書以外の資料 A) カセット MD CD ビデオ LD DVD 電子ブック CD-ROM
- Q 21. 図書館の開催行事 A)
- Q 22. 読書指導 A) 有 無
- Q 23. 必読書または推薦図書リスト A) 有 無
- Q 24. オリエンテーション A) 有 無
- Q 25. 図書館利用指導 A) 有 無
- Q 26. レファレンスサービス（情報提供活動） A) 有 無
- Q 27. 図書館報 A) 有 無

## 2. 調査結果

対象：計208校（中学校58校、高校110校、中高一貫40校）

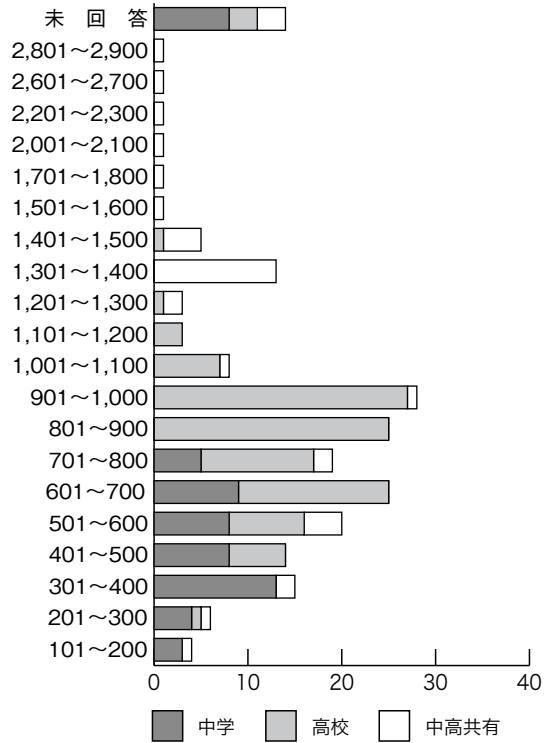
Q 1 中学専用58 高校専用110 中高共有40 合計208校

Q2 生徒数

表1

人数	中学	高校	中高共有
101～200	3	0	1
201～300	4	1	1
301～400	13	0	2
401～500	8	6	0
501～600	8	8	4
601～700	9	16	0
701～800	5	12	2
801～900	0	25	0
901～1,000	0	27	1
1,001～1,100	0	7	1
1,101～1,200	0	3	0
1,201～1,300	0	1	2
1,301～1,400	0	0	13
1,401～1,500	0	1	4
1,501～1,600	0	0	1
1,701～1,800	0	0	1
2,001～2,100	0	0	1
2,201～2,300	0	0	1
2,601～2,700	0	0	1
2,801～2,900	0	0	1
未回答	8	3	3

図1

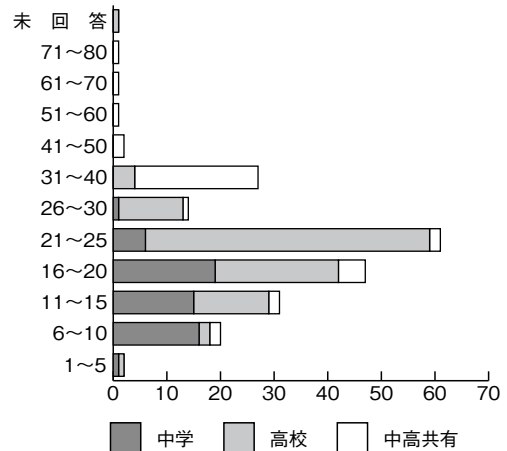


クラス数

表2

クラス数	中学	高校	中高共有
1～5	1	1	0
6～10	16	2	2
11～15	15	14	2
16～20	19	23	5
21～25	6	53	2
26～30	1	12	1
31～40	0	4	23
41～50	0	0	2
51～60	0	0	1
61～70	0	0	1
71～80	0	0	1
未回答	0	1	0

図2

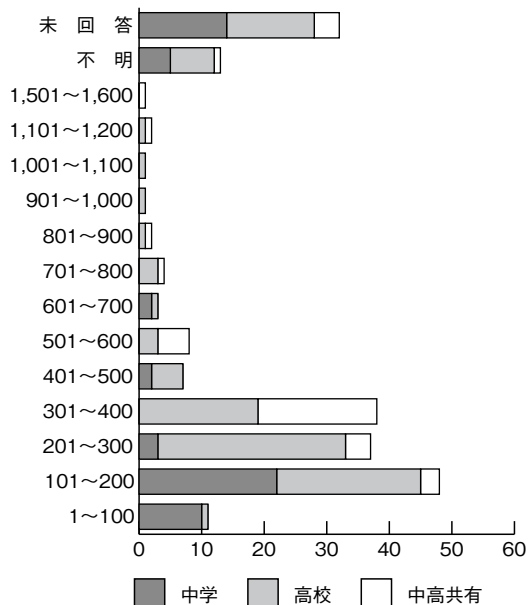


Q 3 図書館面積

表 3

面積 m <sup>2</sup>	中学	高校	中高共有
1～100	10	1	0
101～200	22	23	3
201～300	3	30	4
301～400	0	19	19
401～500	2	5	0
501～600	0	3	5
601～700	2	1	0
701～800	0	3	1
801～900	0	1	1
901～1,000	0	1	0
1,001～1,100	0	1	0
1,101～1,200	0	1	1
1,501～1,600	0	0	1
不明	5	7	1
未回答	14	14	4

図 3

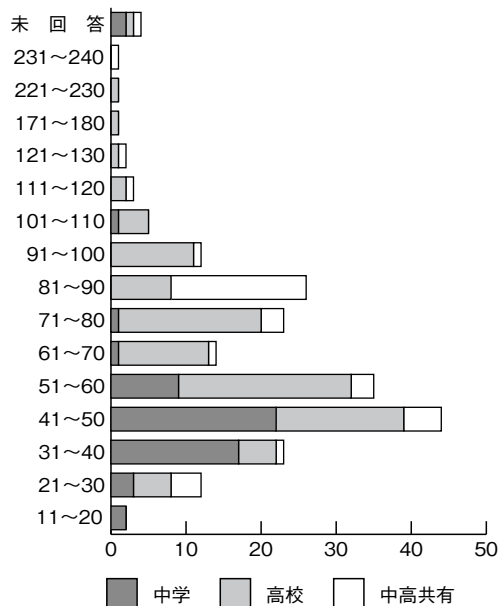


Q 4 閲覧室の座席数

表 4

座席数	中学	高校	中高共有
11～20	2	0	0
21～30	3	5	4
31～40	17	5	1
41～50	22	17	5
51～60	9	23	3
61～70	1	12	1
71～80	1	19	3
81～90	0	8	18
91～100	0	11	1
101～110	1	4	0
111～120	0	2	1
121～130	0	1	1
171～180	0	1	0
221～230	0	1	0
231～240	0	0	1
未回答	2	1	1

図 4



Q5校務運営上の組織・所属

表5

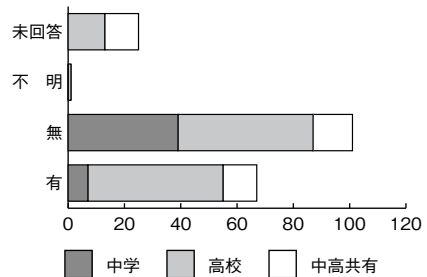
運営	校種別	校	運営所属名
独立	中学	13	学校 各市教育局委員会(3) 図書館教育係 図書館教育図書委員会 図書主任(2)
	高校	44	図書部(23) 図書情報部(2) 図書視聴覚部(10) 情報部図書係 図書館教育係 図書運営委員会(2) 図書課(2) 図書館課(2) 教務部(2) 図書係 図書室 キャリア教育グループ
	中高共有	9	図書室 図書館(3) 研究図書 情報管理 校長直属 教頭直属
非独立	中学	29	図書視聴覚 学習指導(2) 研究部 学習指導図書係(3) 施設管理部 教務部(4) 指導一課 学習部 教育指導部 図書課 図書館教育部 管理部 学業部(2)
	高校	53	図書部(4) 図書課(2) 教育改革本部 学習部 情報活用 図書視聴覚 教務部(5) 図書課・図書館部 進路・図書部 渉外・情報部 学習指導部・図書係(3) 図書館部 管理グループ 総務部(3) 庶務部・図書館 広報情報部 図書委員会 学習指導部 企画研修 教育支援(2) 生徒支援グループ 図書館課・教務部
	中高共有	29	中高部 教務部・事務 図書部(2) 教務部(18) 学習指導
不明	中学	2	
	高校	1	
	中高共有	0	
未回答	中学	14	
	高校	12	
	中高共有	2	

Q6視聴覚関係の業務

表6

視聴覚業務	中学	高校	中高共有
有	7	48	12
無	39	48	16
不明	0	1	0
未回答	12	13	12

図6

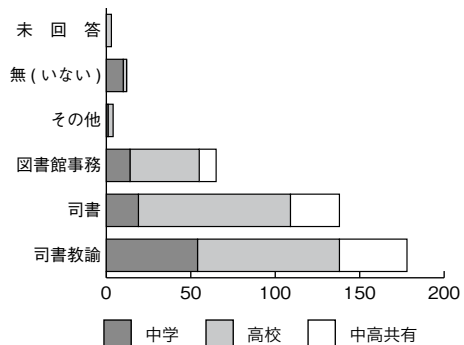


Q7専任の職員数

表7

職種	中学	高校	中高共有
司書教諭	54	84	40
司書	19	90	29
図書館事務	14	41	10
その他	1	3	0
無(いない)	10	2	0
未回答	0	3	0

図7

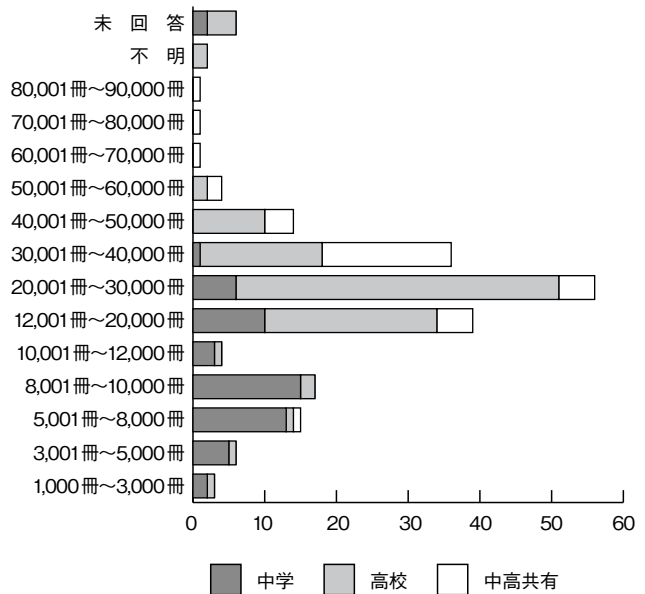


Q 8 蔵書数

表 8

蔵書数	中学	高校	中高共有
1,000冊～3,000冊	2	1	0
3,001冊～5,000冊	5	1	0
5,001冊～8,000冊	13	1	1
8,001冊～10,000冊	15	2	0
10,001冊～12,000冊	3	1	0
12,001冊～20,000冊	10	24	5
20,001冊～30,000冊	6	45	5
30,001冊～40,000冊	1	17	18
40,001冊～50,000冊	0	10	4
50,001冊～60,000冊	0	2	2
60,001冊～70,000冊	0	0	1
70,001冊～80,000冊	0	0	1
80,001冊～90,000冊	0	0	1
不明	0	2	0
未回答	3	4	2

図 8



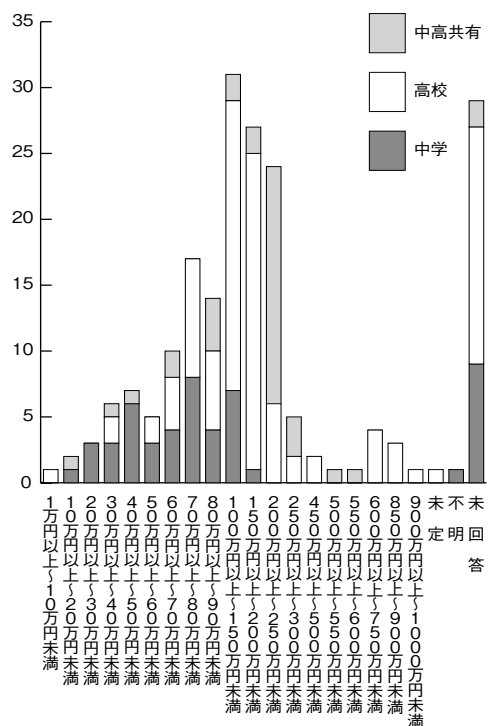
Q 9 現在の予算 (①図書費・②雑誌費・③A V (視聴覚) 資料費)

①図書費

表 9

図書費	中学	高校	中高共有
1万円以上～10万円未満	0	1	0
10万円以上～20万円未満	1	0	1
20万円以上～30万円未満	3	0	0
30万円以上～40万円未満	3	2	1
40万円以上～50万円未満	6	0	1
50万円以上～60万円未満	3	2	0
60万円以上～70万円未満	4	4	2
70万円以上～80万円未満	8	9	0
80万円以上～90万円未満	4	6	4
100万円以上～150万円未満	7	22	2
150万円以上～200万円未満	1	24	2
200万円以上～250万円未満	0	6	18
250万円以上～300万円未満	0	2	3
450万円以上～500万円未満	0	2	0
500万円以上～550万円未満	0	0	1
550万円以上～600万円未満	0	0	1
600万円以上～750万円未満	0	4	0
850万円以上～900万円未満	0	3	0
900万円以上～1,000万円未満	0	1	0
未定	0	1	0
不明	1	0	0
未回答	17	21	4

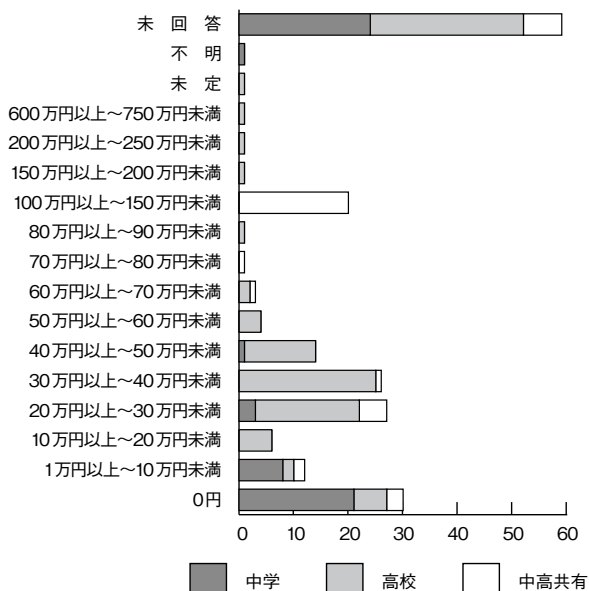
図 9



②雑誌費  
表10

雑誌費	中学	高校	中高共有
0円	21	6	3
1万円以上～10万円未満	8	2	2
10万円以上～20万円未満	0	6	0
20万円以上～30万円未満	3	19	5
30万円以上～40万円未満	0	25	1
40万円以上～50万円未満	1	13	0
50万円以上～60万円未満	0	4	0
60万円以上～70万円未満	0	2	1
70万円以上～80万円未満	0	0	1
80万円以上～90万円未満	0	1	0
100万円以上～150万円未満	0	0	20
150万円以上～200万円未満	0	1	0
200万円以上～250万円未満	0	1	0
600万円以上～750万円未満	0	1	0
未定	0	1	0
不明	1	0	0
未回答	24	28	7

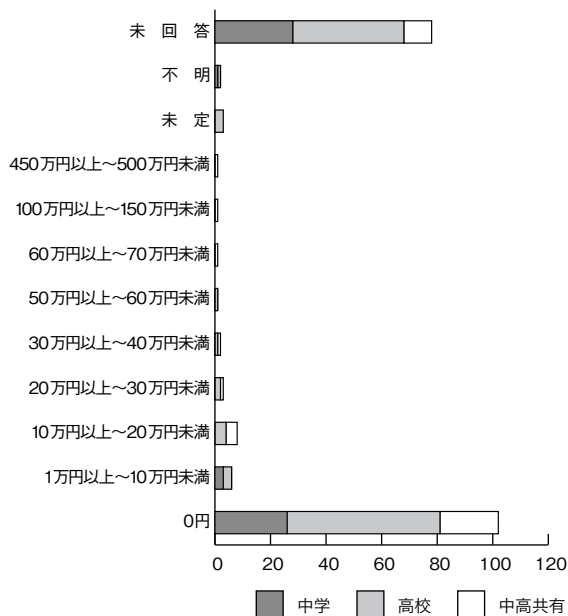
図10



③A V資料費（視聴覚資料）  
表11

A V資料費	中学	高校	中高共有
0円	26	55	21
1万円以上～10万円未満	3	3	0
10万円以上～20万円未満	0	4	4
20万円以上～30万円未満	0	2	1
30万円以上～40万円未満	0	1	1
50万円以上～60万円未満	0	1	0
60万円以上～70万円未満	0	0	1
100万円以上～150万円未満	0	0	1
450万円以上～500万円未満	0	0	1
未定	0	3	0
不明	1	1	0
未回答	28	40	10

図11

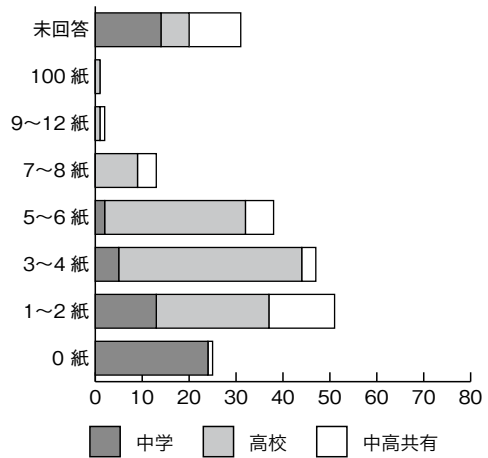


Q 10 購入新聞・雑誌

①新聞  
表 12

新聞	中学	高校	中高共有
0紙	24	0	1
1～2紙	13	24	14
3～4紙	5	39	3
5～6紙	2	30	6
7～8紙	0	9	4
9～12紙	0	1	1
100紙	0	1	0
未回答	14	6	11

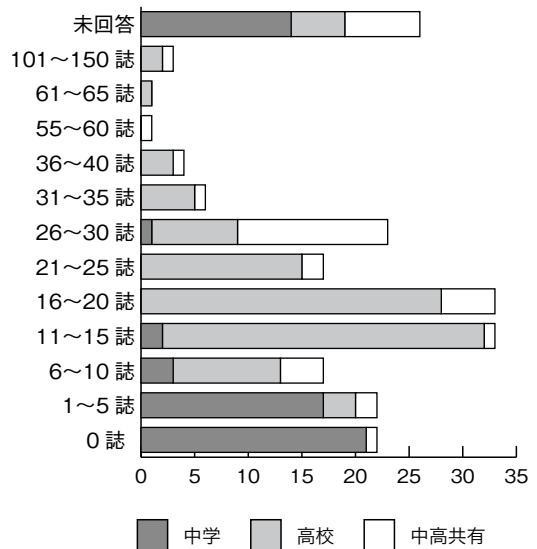
図 12



②雑誌  
表 13

雑誌	中学	高校	中高共有
0誌	21	0	1
1～5誌	17	3	2
6～10誌	3	10	4
11～15誌	2	30	1
16～20誌	0	28	5
21～25誌	0	15	2
26～30誌	1	8	14
31～35誌	0	5	1
36～40誌	0	3	1
55～60誌	0	0	1
61～65誌	0	1	0
101～150誌	0	2	1
未回答	14	5	7

図 13

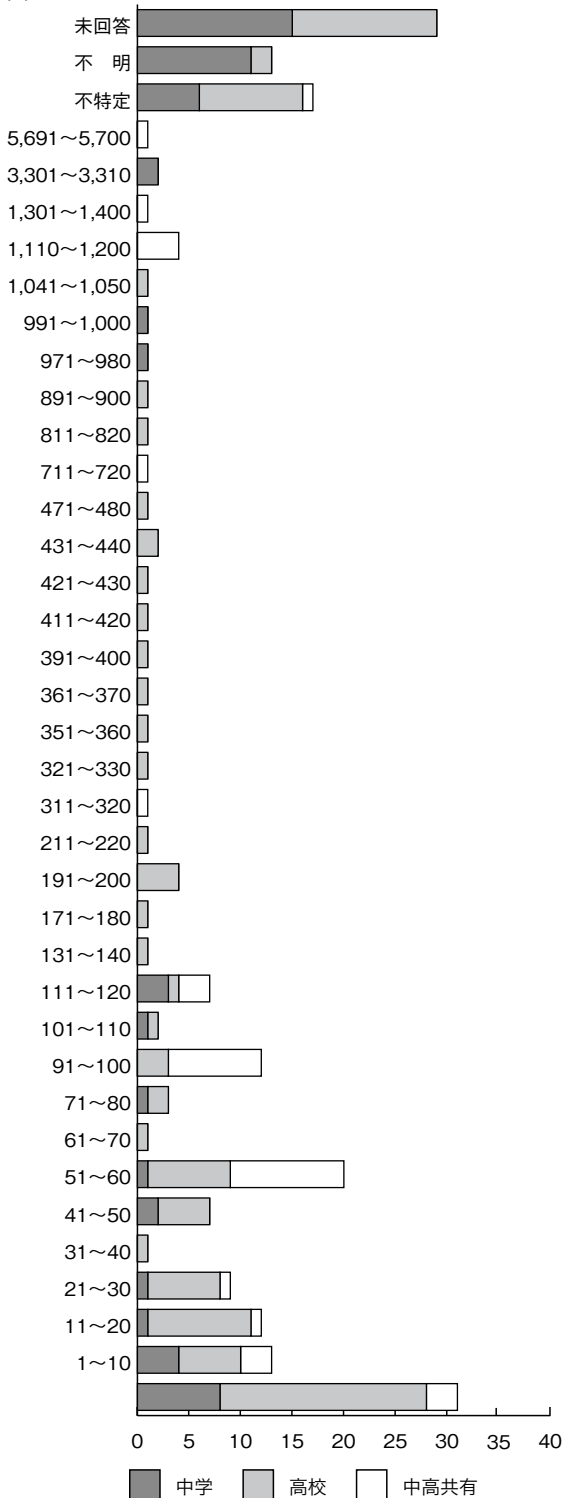


Q 11 図書館利用年間授業時間数

表 14

授業時間数	中学	高校	中高共有
0	8	20	3
1～10	4	6	3
11～20	1	10	1
21～30	1	7	1
31～40	0	1	0
41～50	2	5	0
51～60	1	8	11
61～70	0	1	0
71～80	1	2	0
91～100	0	3	9
101～110	1	1	0
111～120	3	1	3
131～140	0	1	0
171～180	0	1	0
191～200	0	4	0
211～220	0	1	0
311～320	0	0	1
321～330	0	1	0
351～360	0	1	0
361～370	0	1	0
391～400	0	1	0
411～420	0	1	0
421～430	0	1	0
431～440	0	2	0
471～480	0	1	0
711～720	0	0	1
811～820	0	1	0
891～900	0	1	0
971～980	1	0	0
991～1,000	1	0	0
1,041～1,050	0	1	0
1,110～1,200	0	0	4
1,301～1,400	0	0	1
3,301～3,310	2	0	0
5,691～5,700	0	0	1
不特定	6	10	1
不明	11	2	0
未回答	15	14	0

図 14



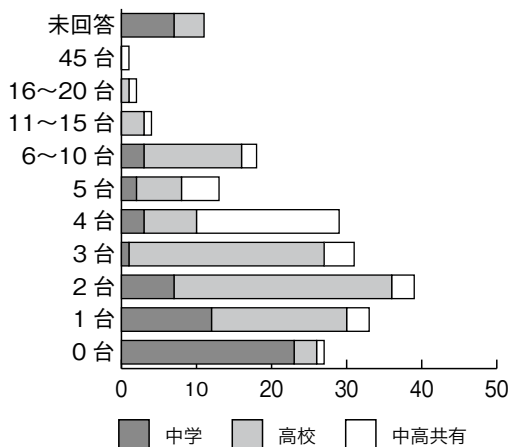


Q 12 コンピュータの台数

表 15

台数	中学	高校	中高共有
0台	23	3	1
1台	12	18	3
2台	7	29	3
3台	1	26	4
4台	3	7	19
5台	2	6	5
6～10台	3	13	2
11～15台	0	3	1
16～20台	0	1	1
45台	0	0	1
未回答	7	4	0

図 15

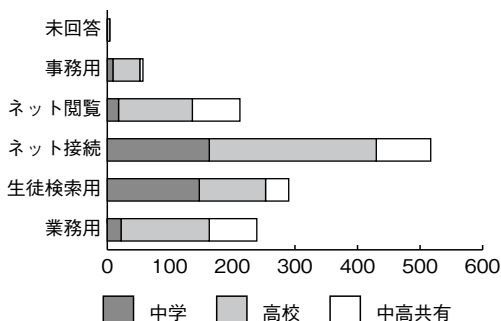


Q 13 コンピュータの使用目的

表 16

使用目的	中学	高校	中高共有
業務用	22	141	76
生徒検索用	147	106	37
ネット接続	163	267	87
ネット閲覧	18	118	76
事務用	9	43	5
未回答	0	4	0

図 16



Q 14 業務用ソフト名

表 17

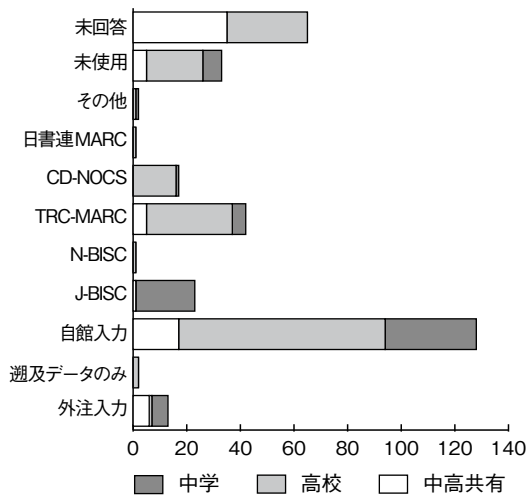
校種	ソフト名	未回答
中学	スクールプロ ナカコミ(LNO,Jr) SCHOOL-LIB(3) 一太郎 LIB-WAN R windowsXP SCHOOL-ILIS 図書丸ねっと 探調 CASA FUJITSU 両毛システム よむこ(有隣堂)	6
高校	CASA(21) CASA III(2) TRCD 名館長 windows りいぶる Liv MAX(2) Micro soft Access SCHOOL-ILIS(3) TRC FUJITSU VISTA 探調(3) egg スクールプロ(6) 情報館 スクールプロ Ver(2) スクールアイ ライブマックス(12) 文籍 はいばーエル LMOJr. Softec(2) windowsXP(2) 探検隊(2) ピタゴラス 自館開発ソフト(3)	0
中高共有	情報館(5) 情報館5.0 SCHOOL-LIB SCHOOL-ILIST 探調 windowsXP アクセス エリーゼ(15) ツールアイ はいばーエル スクールLics	0

Q 15入力業務

表18

入力方法		中学	高校	中高共有
外注入力		6	1	6
遡及データのみ		0	2	0
自館入力		17	77	34
MARC	J-BISC	1	0	22
	N-BISC	0	1	0
	TRC-MARC	5	32	5
	CD-NOCS	0	16	1
	日書連MARC	0	1	0
	その他	0	1	1
	未使用	5	21	7
	未回答	35	30	0

図18

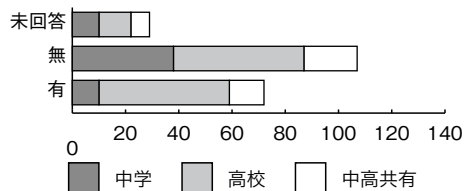


Q 16LANシステムの導入

表19

LAN	中学	高校	中高共有
有	10	49	13
無	38	49	20
未回答	10	12	7

図19

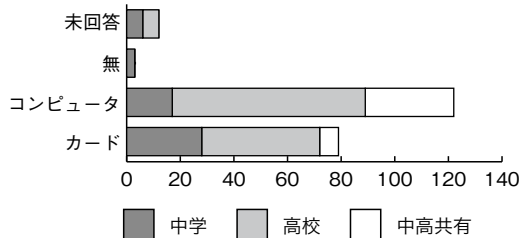


Q 17検索方法

表20

検索	中学	高校	中高共有
カード	28	44	7
コンピュータ	17	72	33
無	3	0	0
未回答	6	6	0

図20

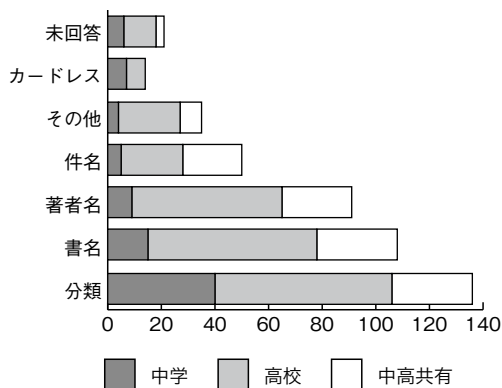


Q 18 目録の種類

表21

目録		中学	高校	中高共有
目録	分類	40	66	30
	書名	15	63	30
	著者名	9	56	26
	件名	5	23	22
	その他	4	23	8
カードレス		7	7	0
未回答		6	12	3

図21

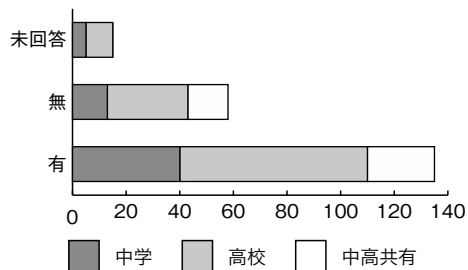


Q 19 廃棄基準

表22

廃棄	中学	高校	中高共有
有	40	70	25
無	13	30	15
未回答	5	10	0

図22

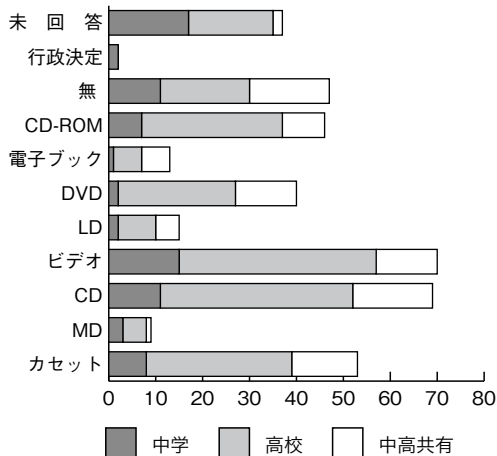


Q 20 図書以外の資料

表23

AV資料		中学	高校	中高共有
種類	カセット	8	31	14
	MD	3	5	1
	CD	11	41	17
	ビデオ	15	42	13
	LD	2	8	5
	DVD	2	25	13
	電子ブック	1	6	6
	CD-ROM	7	30	9
無		11	19	17
行政決定		2	0	0
未回答		17	18	2

図23



## Q 21 学校図書館の開催行事

表24

校種	開催行事	無	未回答
中学	朝読書(2) 朝の読書運動 お話会 オリエンテーション 学級文庫 紙芝居 句会 子ども読書の日 読書朝会 読書会 読書感想画コンクール 読書感想文コンクール 読書月間(2) 読書週間(4) 読書旬間(2) 百人一首大会 ブックトーク 古本市 読み聞かせ(ボランティア・PTA(2))	10	5
高校	朝の10分間読書(4) 映画鑑賞(2) お話会 語り部 クリスマスフェア 芸術鑑賞(9) 高校と交流 校内読書会 講演会(2) 公開講座 国立国会図書館見学 作家インタビュー 雑誌提供 整理 選書研修会 蔵書点検(3) 体育祭写真展 展示 読書会(16) 読書感想画コンクール(2) 読書感想文コンクール(8) 読書月間(2) 読書強化月間 読書週間(9) 図書館オリエンテーション(7) 図書館見学 図書館講座 俳句コンクール 美術品見学会 ビデオ上演 百人一首大会(5) ブックトーク ブックハンティング 100冊読破キャンペーン 古本市(9) 文学散歩(7) 文化祭企画 文化祭参加(8) 昔話を聞く会 読み聞かせ 輪読会 朗読会(4)	24	5
中高共有	オリエンテーション(3) 学校行事向けの企画 芸術鑑賞 展示(13) 読書会 読書感想文コンクール(2) 読書キャンペーン 読書週間 図書館クイズ 百人一首大会 フォーラム 古本市 読み聞かせ 利用指導(11)	0	2

## Q 22 読書指導

表25

指導	中学	高校	中高共有
有	45	62	35
無	13	46	4
未回答	0	2	1

## Q 23 必読書または推薦図書リスト

表26

図書リスト	中学	高校	中高共有
有	37	73	25
無	21	35	14
未回答	0	2	1

## Q 24 オリエンテーション

表27

O.T.	中学	高校	中高共有
有	35	93	36
無	16	15	4
未回答	7	2	0

## Q 25 図書館利用指導

表28

利用指導	中学	高校	中高共有
有	43	86	39
無	9	20	1
未回答	6	4	0

Q 26 レファレンスサービス

表29

レファレンス	中学	高校	中高共有
有	39	97	36
無	19	8	4
未回答	0	5	0

Q 27 図書館報

表30

利用指導	中学	高校	中高共有
有	41	95	36
無	17	9	4
未回答	0	6	0

3. 調査考察

学校図書館を運営していく上で、文部省制定の「学校図書館基準」<sup>11)</sup>の規定がある。上記の表をもとに以下の項目について考察する。学校図書館基準による建物の基準は、「(1) 学校図書館は専用施設とし、教育活動に便利な場所がよい。(2) 閲覧室の収容定員は、在籍児童・生徒数の1割とする。面積は収容定員、1人当たり2.18平方メートルは必要である。最低1学級分の児童・生徒を入れられる広さがある。」とし、蔵書冊数については、平成5年3月29日文初小第209号によって各都道府県教育委員会あて初等中等教育局長通知として文部省はその基準を設定し通知している。

調査による蔵書数は上記Q 8. 現在の蔵書数の表に示した。学校図書館基準(別紙)の表には、小学校、盲学校(小学部)、聾学校(小学部)、養護学校(小学部)、中学校、盲学校(中学部)、聾学校(中学部)、養護学校(中学部)の標準が表記されており、高校や共学校の標準記載はない。しかし、2000年3月21日全国学校図書館協議会が学校図書館メディア基準を制定した。その基準をもとに考察し、以下の結果が得られた。

学校図書館基準(別紙)

中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	$4,800 + 640 \times (\text{学級数} - 2)$
7～12	$7,360 + 560 \times (\text{学級数} - 6)$
13～18	$10,720 + 48 \times (\text{学級数} - 12)$
19～30	$13,600 + 320 \times (\text{学級数} - 18)$
31～	$17,440 + 160 \times (\text{学級数} - 30)$

平成5年3月29日 文部省 文初小第209号各都道府県教育委員会あて初等中等教育局長通知

## 学校図書館メディア基準（2000年3月21日全国学校図書館協議会制定）

## 中学校

P = 生徒数

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22以上
冊数	$20000 + 3 \times P$	$20000 + 800 \times A + 3 \times P$ A = 3をこえた学級数	$22400 + 700 \times B + 3 \times P$ B = 6をこえた学級数	$24500 + 600 \times C + 3 \times P$ C = 9をこえた学級数	$26300 + 500 \times D + 3 \times P$ D = 12をこえた学級数	$27800 + 400 \times E + 3 \times P$ E = 15をこえた学級数	$29000 + 300 \times F + 3 \times P$ F = 18をこえた学級数	$29900 + 200 \times G + 3 \times P$ G = 21をこえた学級数

## 高等学校

P = 生徒数

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22～24	25～27	28以上
冊数	$25000 + 5 \times P$	$25000 + 1000 \times A + 5 \times P$ A = 3をこえた学級数	$28000 + 900 \times B + 5 \times P$ B = 6をこえた学級数	$30700 + 800 \times C + 5 \times P$ C = 9をこえた学級数	$33100 + 700 \times D + 5 \times P$ D = 12をこえた学級数	$35200 + 600 \times E + 5 \times P$ E = 15をこえた学級数	$37000 + 500 \times F + 5 \times P$ F = 18をこえた学級数	$38500 + 400 \times G + 5 \times P$ G = 21をこえた学級数	$39700 + 300 \times H + 5 \times P$ H = 24をこえた学級数	$40600 + 200 \times I + 5 \times P$ I = 27をこえた学級数

## 比較調査結果

メディア基準到達度	中学（58校）	高校（110校）	中高共有（40校）
メディア基準以下	35	67	18
標準メディア基準以上	19	36	22
不明	4	7	0

学校図書館に基礎となる図書がなければ利用者である生徒に十分な資料を与えられない。中高共有は私立のため、校種や規模によって独自の予算が算出されているとあって良い。中高共有校、いわゆる私立では40校の内半分以上の学校は基準を満たしており、ある程度以上の学校図書館の運営が推測できるが、標準以下の学校も少ないとはいえない。中学は公立・町立、高校は都立・県立がほとんどのため地域の行政施策によって予算が異なる。中学の標準以下も、高校の標準以下もかなり多いといえる。基準を満たしている学校との教育活動の差は大きい。学習指導における学校図書館利用によって培われる能力・スキルの育成は、生きる力となるメディア活用能力の育成につながる。学校図書館はメディアの充実によって、学校図書館運営の方向性が決まる。メディアの構築と予算は切り離せない。その課題を残してはいるが、今後の学校図書館の活動を期待したい。調査による専任職員の配置は上記Q7。現在の専任職員の表に示した。学校図書館法<sup>12)</sup>の改正により、12学級以上の学校には平成15年4月1日以降司書教諭の発令が義務付けられた。司書教諭の配置は、学校図書館法改正前の「学校には、当分の間、第5条第1項にかかわらず司書教諭を置かないことができる」ことから比べれば、司書教諭の配置数は多くなったといえる。私立40校の中高共有図書館には全校配置されている。その上、司書や図書館事務の配置数も多い。しかし、中学校においてははまだ司書教諭の配置されていない学校が58校の内10校もある。司書や図書館事務の人たちによって、運営がなされているといえる。高校になると、110校の内、84人の司書教諭の配置があり、司書の配置は90人と司書教諭の配置より上回っている。また、図書館事務の配置も多い。ただし、上記の表は1

学校図書館運営と教育的役割

校につき1人の配置ではなく、司書教諭に限らず司書や図書館事務の配置が1校で4～6人有している学校もある。学校によってそれぞれの配置が異なっているのが現状である。まだまだ、人の配置については職種を問わず問題が多いといえる。

次に、視聴覚メディアの調査は上記Q 20. 図書以外の資料の表に示した。視聴覚メディアの基準もまた全国学校図書館協議会が制定している。

オーディオ・ソフト（カセットテープ、CD、MD等の録音資料）

（2000年3月21日全国学校図書館協議会制定）

中学校

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22以上
本数	500	500+26×A A=3をこえた学級数	578+24×B B=6をこえた学級数	650+22×C C=9をこえた学級数	716+20×D D=12をこえた学級数	776+18×E E=15をこえた学級数	830+16×F F=18をこえた学級数	878+14×G G=21をこえた学級数

高等学校

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22～24	25～27	28以上
本数	600	600+28×A A=3をこえた学級数	684+26×B B=6をこえた学級数	762+24×C C=9をこえた学級数	834+22×D D=12をこえた学級数	900+20×E E=15をこえた学級数	960+18×F F=18をこえた学級数	1014+16×G G=20をこえた学級数	1062+14×H H=24をこえた学級数	1104+12×I I=27をこえた学級数

ビデオソフト（LD・DVD等の映像資料）

（2000年3月21日全国学校図書館協議会制定）

中学校

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22以上
本数	400	400+26×A A=3をこえた学級数	478+24×B B=6をこえた学級数	550+22×C C=9をこえた学級数	616+20×D D=12をこえた学級数	676+18×E E=15をこえた学級数	730+16×F F=18をこえた学級数	778+14×G G=21をこえた学級数

高等学校

学級数	単～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	19～21	22～24	25～27	28以上
本数	500	500+28×A A=3をこえた学級数	584+26×B B=6をこえた学級数	662+24×C C=9をこえた学級数	734+22×D D=12をこえた学級数	800+20×E E=15をこえた学級数	860+18×F F=18をこえた学級数	914+16×G G=20をこえた学級数	962+14×H H=24をこえた学級数	1004+12×I I=27をこえた学級数

視聴覚メディア有無調査結果

視聴覚メディア構築	中学（58校）	高校（110校）	中高共有（40校）
視聴覚メディア 有	28	73	21
視聴覚メディア 無	11	19	17
行政決定	2	0	0
未回答	17	18	2

視聴覚メディアについては著作権の問題もあり、所有する数も少ない。また、著作権だけではなく、視聴覚メディア購入のための予算がないといった学校も多い。視聴覚メディアの構築はすぐには進展できない問題があり、今後の学校図書館の課題ともなると考えられる。視聴覚メディアは、行政の決定により視聴覚資料の収集が出来ない地域もある。また、上記の表の未回答の数字は、単に未回答なのではなく、視聴覚資料の構築が無いとも推測できる。

尚、考察項目を特定したのは、学校図書館の三要素といわれる①施設・設備、②職員、③メディアを考慮したものである。その他の項目は、上記の各表の数字によってある程度明確化できると思われる。

#### IV. 終わりに

学校図書館運営で重要視される三要素は、①施設・設備、②職員、③メディアである。どれが欠けても学校図書館は成り立たない。たとえば、施設・設備はこの上なく立派な物であってもそこに人がいなかったり、メディアが貧弱だったり貧性であれば、図書館としての機能は成し得ない。また、素晴らしい能力を持った人がいても、メディアが貧弱だったり、貧性であったり、施設・設備として成り立たない器だったりすれば、これもまた図書館としての機能は成し得ない。豊富なメディアが揃ってはいるが、それを理解し応用してくれる素晴らしい能力を持った人もなく、施設・設備として成り立たない器だったりすれば、これもまた図書館としての機能は成し得ない。要するに、上記の施設・設備、職員、メディアの充実は、学校図書館において重要な運営の基礎となるものである。

学校図書館に求められている機能は、「児童生徒の主体的・自発的な学習を助ける。児童生徒が創作活動や学習発表を行なう。教職員が研究、授業設計、教材の製作を行う。」ことの支援ができる「学習センター」的機能であり、「情報リテラシーを育成する。情報収集、選択、活用する。学習活動の成果や情報を蓄積・発信する。」ことの支援ができる「情報センター」的機能であり、「児童生徒が読書を楽しみ自己啓発をする。児童生徒が心のオアシスとして気軽に集う。」ことの支援ができる「読書センター」的機能である<sup>13)</sup>。これらが機能することによって学校図書館の働きと、学校図書館に要求されていることが明瞭化できる。一つに「組織的に・計画的に集積された情報を提供する奉仕機関」、もう一つに「機能を生かした授業や図書館(資料)の利用、読書についての教育を行う指導機関」<sup>13)</sup>である。上記のことを踏まえると、学校図書館が教育的活動を行う上で重視することや、奉仕的活動を行う上で重要とすることが見えてくる。

調査結果において、私立、公立・県立・府立・町立などの中学・高等学校の学校図書館の三要素の差は残念ながら明らかになったが、学校がある限り学校図書館はそれぞれに存在する。よりよい学校図書館運営を行うために、学校図書館が教育的活動において重視すること、奉仕的活動において重要とすることがある。学校図書館が教育的活動において重視することは、「①



学習活動を通して、情報活用能力を育成する。②読書活動を通して、心の教育を推進する。③図書委員会を通して、児童・生徒の指導と支援を行う。④教師の活動支援を行う。」<sup>13)</sup>の4点であり、学校図書館が奉仕的活動で重要とすることは、「①メディア提供活動。②授業や学習教材の準備。③利用しやすい環境をつくる。」<sup>13)</sup>の3点であるといえる。

学校図書館の運営には、多くの課題があり、すぐに表面化できるものではない。しかし、1日でも早く、1つでも多くの課題を取り除き、健全な学校図書館運営が必要であることは明確化している。

### 【註】

- 1) 「学校図書館速報版4月15日」 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2008.
- 2) 「小学校来春に授業増 週1コマ指導要領を前倒し 文科省方針」 朝日新聞 朝日新聞社 2008.4.25. 「小学校授業週1コマ増 理数強化来年度から」 読売新聞 読売新聞社 2008.4.25. 「新学習指導要領 前倒し 小学校 中学校」 産経新聞 産経新聞社 2008.4.25.
- 3) 『新学校図書館事典「6. 学校教育と学校図書館計画」』 室伏武・高桑康雄・瀬戸真編 第一法規出版 1983.9.20.
- 4) 「学校図書館と経営」 志保田務他 第一法規出版 2007.9.30.
- 5) 「学校図書館事例集」 第一法規 第一法規出版 2004.10.
- 6) 「本はともだち」 読売新聞 読売新聞社 2002.6.
- 7) 「学校図書館」 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 1999.
- 8) 「としょかん通信」 全国学校図書館協議会編 全国学校図書館協議会 2003.
- 9) 「司書教諭の役割」 文部科学省認定・近畿大学司書教諭課程テキスト 2000.
- 10) 「学校図書館の一年間」 講演者・(筆者) 村上詠子 東京私学学校図書館研究会 2008.5.23.
- 11) 「学校図書館基準」 1959. 文部省制定
- 12) 「学校図書館法」 1997.6.改正
- 13) 『新学校図書館通論』改訂版 図書館教育研究会編 学芸図書 2007.
- 14) グラフ協力者 河田幸枝

### 【参考資料】

- ・ 目白学園中学高等学校図書館年間計画表
- ・ 学校図書館運営調査

### 【参考文献】

- ・ 『新学校図書館事典』 室伏武・高桑康雄・瀬戸真編 第一法規出版 昭和58年9月20日
- ・ 『学校教育と図書館』 志保田務他 第一法規出版 平成19年9月30日
- ・ 「学校図書館基準」 昭和34年 文部省制定
- ・ 「学校図書館法」 1997.6.改正